

## 【宋宇ゼミナール】 2025 年度 活動報告

対象地域	日本、宇都宮市(栃木県)、豊中市(大阪府)
テーマ	財政ひろめ「隊」、就労支援政策、働くという意味
キーワード	財政×人生ゲーム、人手不足、賃金、予防的社会保障、ヒトへの投資

知識のインプットと実践や応用のアウトプットの両方を重視するゼミ設計。2025 年度では、月1回で合同ゼミが行われ、前期ではインプットの輪読をメインとしていたが、後期ではさまざまな場面でアウトプット・実践を行いました。

### ● 輪読した文献

- ①上田道明(2023)「第 10 章 決められた政策を「こなす」だけ? –行政組織から4の政策形成–」『いまから始める地方自治』法律文化社。
- ②白砂明子(2021)「第 14 章 若者の生きづらさと「ひきこまり」」『いま社会政策に何ができるか どうする日本の労働政策』ミネルヴァ書房。
- ③白砂明子(2019)「若者の育ちを支える、希望ある地域へ –豊中市における若者支援の実践を通じて」『TOYONAKA ビジョン 22』Vol. 22
- ④筒井美紀・櫻井純利・本田由紀(2014)『就労支援を問い直す』勁草書房。
- ⑤玄田有史(2017)『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』慶応義塾大学出版会。

### ● 2年、3年、4年の合同ゼミ活動

6月:高校生の大学インターンシップにおける宋ゼミの体験イベント



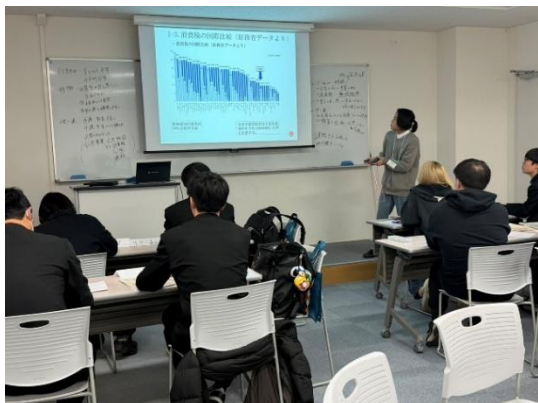
9月夏休み中:豊中市へのフィールドワーク



11月:保育園児に向けて「公共サービス」を話す



## 12月:栃木県立小山高校との高大連携



### ● 2年宋ゼミの集大成


とちぎ学生アイデアピッチバトルに参加(100秒でアイデアを述べる)

QRコードを読み取って、予選で通過した動画をご覧ください。



● 3年、4年宋ゼミの集大成

宇都宮市の「大学生によるまちづくり提案 2025」に参加  
(プレゼンテーション+ポスター発表)



## NO.3 皆のみやワーク支援

### デジタル化を活かした誰もが働ける・働きがいを感じるまちづくりへ

帝京大学地域経済学科・宋ゼミ：成 藤、高野 洸人、菊地 彪太郎、薄井 涼介  
提出日：2025年12月11日


#### 背景・目的

**背景1) 全国状況：**  
働き手不足なのに、無職者が多い  
2022年時点で15~44歳の無職者が約 **93万人** 存在

**背景2) 就労・働くことの意味：人の生存**  
・社会とのつながり、自己成長の基盤でもある

**背景3) 宇都宮市の就労支援の問題：**  
① 支援団体の点在と連携不足  
② 市の取り組み姿勢の不明確  
③ 情報アクセスの困難さ

**目的：**宋ゼミより宇都宮市への政策提案  
**豊中市就労支援モデル+宇都宮市のLRT・デジタル基盤**



#### テーマとの関連性

**テーマ：**  
ほっこりした宇都宮~デジタル社会における温かい人間関係~

「働ける・働き続けられる」ことは、ほっこりした人間関係や地域の安心感につながる。

就労支援⇒生活の安定⇒地域コミュニティへの参加・やりがい等⇒人間関係の温かさ

**主張：**就労支援は、単なる「雇用対策」ではなく、人が自分らしく生きるための基盤づくりである。

- ・ **第1柱：就労支援パッケージの形成**  
第1段階：生活支援  
第2段階：就労準備支援  
第3段階：職業訓練・マッチング  
第4段階：就労後の定着支援
- ・ **第2柱：雇用ネットワークの構築**  
① 行政主導の統括体制  
② 多機関連携ネットワークの構築  
③ 企業との協働体制の構築  
④ 教育機関との連携を強化
- ・ **デジタルとアナログの融合**  
① 宇都宮市公式LINE「ミヤリー」の拡充  
② デジタルプラットフォームの構築

#### 提案の詳細

##### デジタル面

- ① 公式LINE「ミヤリー」を就労支援のハブに拡充
- ② 求人情報・訓練案内・相談窓口情報を一元化の情報発信
- ③ AIチャットによる24時間相談受付、WEB予約システム

##### アナログ面

- ① 一対一の相談窓口の充実、専門カウンセラー・メンターの配置
- ② LRT沿線でのサテライト相談窓口、企業訪問同行
- ③ 伴走型支援、半福祉・半就労

両者を組み合わせ、新しい就労支援モデルの実現：「市民の働きを本気で支える」と宣言し、誰もが働ける・働きがいを感じるまちづくりへ

#### アンケート調査結果

・「就職先の地域」が**73.0%**で、最も高い割合

・働き続けられる環境づくり、生活と就労を一体的に変える政策づくりが求められている。

© 2024 帝京大学 豊中市・大学生協同体のアンケート

#### 豊中市の成功事例

- 1) 宇都宮市より完全失業者が少なく、全国シェアも宇都宮市より低い(表1)
- 2) 豊中市独自の就労支援政策(表2)
  - (1) 行政が明確なリーダーシップを発揮  
- 「くらし支援課」(就労支援体制の中心)
  - (2) 多機関が分業しながら連携  
- 社会福祉協議会  
- 行政(くらし支援課)  
- キャリアブリッジ(民間)
- 3) 特に若者の伴走支援が充実しており、若者が社会へ踏み出せる環境づくりの成功事例

宇都宮市も実現可能な理由：①人口規模の近似的性(宇：52万人、豊：40万人) ②都市規模の共通性(中心市街地+郊外住宅地+LRTまたは軌道) ③財政力(宇0.95、豊0.88) ④高齢化率(宇：26.1%、豊：25.8%) ⑤既存支援機関の存在

表1 完全失業者と全国ランキング(2015)

	全国ランキング	人数	全国シェア
宇都宮市	37位	10,211	0.39
豊中市	52位	8,203	0.31

出所) 日本全国版労働(2015)

表2 豊中市独自の就労支援政策(2015)

施策名	内容	実施主体
行政主導の統括体制	行政が明確なリーダーシップを発揮し、各機関が分業しながら連携	行政(くらし支援課)
多機関連携ネットワークの構築	社会福祉協議会、行政(くらし支援課)、キャリアブリッジ(民間)が連携	社会福祉協議会、行政、民間
企業との協働体制の構築	企業訪問同行、伴走型支援	企業、行政
教育機関との連携を強化	職業訓練、マッチング支援	教育機関、行政

● その他

『帝京大学地域活性化研究センター年報』第 10 巻への報告論文の投稿:

- ・菅井楓、高野洸人、宋宇(2026)「2025 年度地域経済学科の高大連携における宋ゼミの活動－消費税の逆進性と軽減税率をめぐる対話型学習－」
- ・宋宇、宋ゼミナール(2026)「宇都宮市における就労支援政策の提案－豊中市の成功事例に学ぶネットワーク型就労支援パッケージの構築－」

帝京大学経済学部地域経済学科第 9 回ゼミ合同発表会に参加:

・プレゼンテーション部門:

発表⑨ 宋ゼミ(3・4 年)「宇都宮市への政策提案:皆のみやワーク支援」

・展示部門:

宋ゼミ(2 年)「財政×人生ゲーム」

宋ゼミ(3・4 年)「宇都宮市への政策提案:皆のみやワーク支援」

以上